里川文化塾

詳細はHPで公開しています。
http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/

里山や里海だけではなく、暮らしとかかわるすべての水循環の経路を私たちのセンターでは「里川」と呼んでいます。いろいろな里川を発見しその価値を身近に感じたい！　ということで、2011年度からスタートした〈里川文化塾〉。39号でレポートした「府中用水ワークショップ」に続き、「里川づくりワークショップ」（10月23日）「小水力発電 はじめの一歩」（11月17日）「『春の小川』の流れをめぐるフィールドワーク」（2月5日）のレポートをお届けします。

里川づくりワークショップ

会期：2011年10月23日(土)　10時～17時

会場：ミツカンフォーラム（東京都中央区）・日本橋川・神田川・隅田川・小名木川

水先案内人：**難波匡甫**さん　法政大学サスティナビリティ研究教育機構研究員

左：神田川では、隅田川とは異なり、オフィスビルが川に背を向けるように建っている。川の真横で働く人の川に対する心理的距離はいかほどか。
下：難波匡甫さん

地域形成史を専門に全国の川を視察している難波匡甫さんを水先案内人に招き、非常時における川の利用法に注目。日本橋川・神田川・隅田川・小名木川を船で巡り、非常時における川の利用について考えるワークショップを行ないました。

乗船前に難波さんから、「江戸東京のまちづくりと川」について、地図や図版を用いてお話がありました。難波さんから「現在、都会で生活する人は川とかかわることが少なく、川の素晴らしさも川の怖さも知る機会がない。今後は、これら両方を常に一緒に意識し、さまざまな場面で川の利活用法を考えていくことが望ましい在り方ではないか」という問いかけを受けて、乗船フィールドワークを体験。要所要所で難波さんからレクチャーを受けたあと、再びミツカンフォーラムに戻って、感想や非常時における川の利用について話し合いました。

感想の中には、「応援する」という言葉が出ましたが、「一方的に住民側が公に要求することが多かったとこれまでの関係を改め、地域の安全性や快適性を高めていくためには、両者の間に信頼を築くことが大切」という気づきが与えられました。

小水力発電 はじめの一歩

会期：2011年11月17日（木）14時～20時30分

会場：川井浄水場（横浜市旭区）・横浜市技能文化会館 ホール　協力：横浜市水道局

ワークショップリーダー：**古谷桂信**さん　フォトジャーナリスト、全国小水力利用推進協議会理事

小水力発電施設。2基併設されている。
発電容量は270kw（135kw×2）。

下：古谷桂信さん

東日本大震災の影響により、2011年の夏は、エネルギー不足が深刻な問題となり、例年以上に再生エネルギーへの関心が高まりました。そこで、小水力発電適地の目利きである古谷桂信さんと一緒に、実際に小水力発電を行なっている川井浄水場を見学し、第2部では会場を横浜市技能文化会館に移し、小水力発電の基礎知識から今後の展望などのお話と質疑応答を行ないました。

古谷さんから「東日本大震災以降、『何かをしなければいけないのだろうが、何をしたらいいかわからない』という状況の自治体が多い。小水力発電で採算を取るには固定買取価格がポイントだが、この金額が確定するまで待ってから取り組むのでは遅い。採算が取れると決まったら小さな町にも大企業が押し寄せて地元の人たちが参入できなくなる可能性がある。多少のリスクを冒してでも先行して動くことが重要だ」という生の声を聞くことができました。

家庭の屋根に設置すればすぐに発電できる太陽光発電などに比べ、導入の難しさやわかりにくさもあって過小評価されてきた小水力発電ですが、浄水場も適地になること、高知で小水力利用推進協議会を立ち上げた経験談など、はじめの一歩を踏み出す学びが得られた一日でした。

『春の小川』の流れをめぐるフィールドワーク

会期：2012年2月5日（日）10時～17時

会場：ハロー貸し会議室Shibuya（東京都渋谷区）、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

講師：**中村晋一郎**さん　東京大学総括プロジェクト機構「水の知」総括寄付講座特任教授

ゲスト：**田原光泰**さん　白根記念渋谷区郷土博物館学芸員

上：合流式と書かれたマンホールの蓋。下：第2会場で参加者からの質問に答える中村さん（右）と田原さん

渋谷に生まれ育ち、勤務地も渋谷という田原光泰さんが渋谷川についてのガイダンスを、引き続き、中村さんが「なぜ、渋谷川が暗渠になったのか？―渋谷川から考える、これからの都市河川再生」と題してレクチャーを行ないました。昼を挟んで、フィールドワークに出発。並木橋～稲荷橋～宇田川新水路～鍋島松濤公園～河骨川跡と、渋谷川の開渠部分から上流の暗渠を遡り、支流の宇田川と河骨川の跡をたどりました。

第2会場では、全員で感想・コメントを述べ、中村さんと田原さんに答えていただきました。都市河川が下水道化され、蓋をされていった経緯を学び、高度経済成長期にはこれが効率的な方策と考えられていたことに驚きを覚えました。都市河川再生は、まず川本来の機能とは何かを考えるところから始まります。そのために、流域を超えた水収支や下水道形式を見直さなくてはならないこと、ひいては私たち一人ひとりが、「川との暮らし方」の舵取りを変えることが、渋谷川をはじめとする都市河川再生の鍵を握っていると気づかされました。

■水の文化41号予告

特集「和紙」（仮）

日本には水と切っても切れない関係にある伝統的な産品が多くあります。工芸の分野では、和紙がその代表。果たして和紙をつくることは、どのような水使いを育んできたのでしょうか。

水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。
ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

http://www.mizu.gr.jp/

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。
すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

ホームページをフルリニューアルしました

当センターのホームページが昨年、フルリニューアルいたしました。知りたい情報にたどり着きやすくすることを心がけ、ウェブならではのコンテンツも新設しています。新しくなったホームページ、どうぞご高覧ください。

編集後記

◆「禹」！　恥ずかしながら今回の取材を通じて、初めて知りました。日本でも禹に学び敬い、治水に生かしたことを知り、ロマンを感じると共に自国と隣国のことをもっと知らなくては、と痛感した数カ月でした。（宮）

◆歴史に疎く、禹王といわれてもピンとこなくて、禹については取材を通じて知ったようなものである。中国では禹をある種の理想的人物像に祀りあげようとしているのかもしれないが、それが人や社会が進化していく契機になれば、禹王も見直されるのではないかと思う。（新）

◆酒匂川は小学校の社会の教科書で勉強して以来。歴史のロマンたっぷりの魅力的なところであった。禹に関するさらなる発見が楽しみでならない。（ゆ）

◆自宅に近い多摩川の横を、昨年開削四百周年を迎えた六郷用水が流れている。１７００年頃には荒廃しており１７２５年に改修したのが田中丘隅だった。灌漑技術にも中国思想の影響はあったのだろうか？（中）

◆Ｋ-ＰＯＰ人気や東日本震災時の台湾からの義援金などで、アジアと日本の心理的距離が縮まっているように感じる。明治初期から「脱亜入欧」を主軸に近代化が進められてきたが、国際社会となった現在、改めてアジアと日本のつながりを見つめ直してみたい。（緒）

◆禹について理解できたとはいえないが、普段知る機会の少ない中国の歴史に触れたことで、新たな興味を抱かされた。あまり興味のなかったことでも、機関誌をつくり上げていく過程では、常に新しい発見がある。これがこの仕事をやめられない楽しさなのだと改めて感じた。（力）

◆中華思想の根本に〈農〉がある。時間観念が循環に支配されるのも、四季に応じて死（枯死）と再生（芽生え）を繰り返すからだ。「時間軸は直線」という科学的思想がアジア人の心に馴染まない理由は、そこにあるのかもしれない。合意形成には、相手の土俵を知ることが要諦と知った。（賀）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化
第40号

ホームページアドレス
http: //www.mizu.gr.jp/

※ 禁無断転載複写

発行日	2012年（平成24）2月
企画協力	沖 大幹　東京大学生産技術研究所教授 古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会 島谷幸宏　九州大学工学研究院教授 陣内秀信　法政大学教授 鳥越皓之　早稲田大学教授
客員主幹研究員	中庭光彦　多摩大学准教授
制作	宮崎真次　新美敏之　松本裕佳　小林夕夏　緒方大輔　原田朱野　吉田奈保子
編集製作	賀川一枝　編集長　中野公力　賀川督明　デザイン・撮影
発行	ミツカン水の文化センター 〒104 - 0033　東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル9F 株式会社ミツカングループ本社 Tel. 03（3555）2607　Fax. 03（3297）8578
お問い合わせ	ミツカン水の文化センター 事務局 〒104-0043　東京都中央区湊3-4-10 レジディア10F Tel. 03（3552）7504　Fax. 03（3552）7506